TADOKU JUNIOR　せかいのなぜなに神話　★★★☆☆ ふつう　590語

Was it the First Turtle?

さいしょのカメだったの？

Florence Holbrook（1902年の本）　**原文そのまま**　朗読：Shy

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　はげしいたたかいで、ただひとりのこった戦士タートル。せなかとむねにたてをつけて矢をふせぎ、さいごに川へとびこむと……。



Once upon a time there was a great fight between two tribes of Indians. It was so fierce that the river ran red with blood, and the war-cries were so loud and angry that the animals of the forest ran away in terror. The warriors fought all day long, and when it began to grow dark, all the men on one side had been killed but two warriors, one of whom was known as Turtle. In those days there were no such animals as turtles in the ponds and rivers, and no one knew why he was called by that name. At last Turtle's friend was struck by an arrow and fell to the ground.

"Now yield!" cried the enemies.

"Friend," said Turtle, "are you dead?"

"No," said his friend.

"Then I will fight on," said Turtle, and he called out, "Give life again to the warriors whom you have killed with your wicked arrows, and then I will yield, but never before. Come on, cowards that you are! You are afraid of me. You do not dare to come!"

Then his enemies said, "We will all shoot our arrows at once, and some one of them will be sure to kill him." They made ready to fire, but Turtle, too, made ready. He had two thick shields, and he put one over his back and one over his breast. Then he called to his fierce enemies, "Are you not ready? Come on, fierce warriors! Shoot your arrows through my breast if you can."

The warriors all shot, but not an arrow struck Turtle, for the two shields covered his breast and his back, and whenever an arrow buzzed through the air, he drew in his head and his arms between the shields, and so he was not harmed. "Why do you not aim at me?" he cried. "Are you shooting at the mountain, or at the sun and the moon? Good fighters you are, indeed! Try again."

His enemies shot once more, and this time an arrow killed the wounded friend as he lay on the ground. When Turtle cried, "Friend, are you living?" there was no answer.

"My friend is dead," said Turtle. "I will fight no more."

"He has yielded," cried his enemies.

"He has not," said Turtle, and with one great leap he sprang into the river. His enemies did not dare to spring after him.

"Those long arms of his would pull us to the bottom," they said; "but we will watch till he comes up, and then we shall be sure of him."

They were not so sure as they thought, for he did not come up, and all that they could see in the water was a strange creature unlike anything that had been there before.

"It has arms and a head," said one.

"And it pulls them out of sight just as Turtle did," said another.

"It has a shield over its back and one over its breast, as Turtle had," said the first. Then all the warriors were so eager to watch the strange animal that they no longer remembered the fight. They crowded up to the shore of the river.

"It is not Turtle," cried one.

"It is Turtle," declared another.

"It is so like him that I do not care to go into the water as long as it is in sight," said still another.

"But if this is not Turtle, where is he?" they all asked, and not one of the wise men of their tribe could answer.

和訳 さいしょのカメだったの？（Was it the First Turtle?）

むかしむかし、アメリカせんじゅうみんのふたつの部族のあいだで、大きなたたかいがありました。たたかいはとてもはげしく、血で川が赤くなるほどでした。ときの声もあまりに大きくおそろしかったので、森の動物たちはこわがってにげていきました。せんしたちは一日じゅうたたかいました。あたりがくらくなりはじめたころ、片方では、ふたりのせんしをのぞく男たちが、みないのちをうばわれていました。そのひとりは、タートル（カメ）とよばれていました。そのころ、池や川にはカメという動物はいなかったので、どうしてそんな名前でよばれているのか、だれも知りませんでした。とうとう、タートルの友だちが矢にあたって、地面にたおれました。

「さあ、こうさんしろ！」と敵たちはさけびました。

「友よ」とタートルは言いました。「死んでしまったのか？」

「いいや」と友だちは言いました。

「それなら、わたしはたたかいつづける」とタートルは言い、大声でさけびました。「おまえたちのひどい矢でいのちをうばったせんしたちを、もう一度生きかえらせてみろ。そうしたらこうさんしよう。だが、それまではけっしてこうさんしないぞ。かかってこい、おくびょう者め！わたしがこわいんだろう。かかってくる勇気もないんだな！」

するとてきたちは言いました。「みんなでいっせいに矢をいよう。どれか一本は、きっとあいつのいのちをうばうはずだ。」敵たちは矢をいるじゅんびをしましたが、タートルもじゅんびをしました。タートルはぶあついたてをふたつ持っていて、ひとつをせなかに、ひとつをむねにつけました。そして、あらあらしいてきたちによびかけました。「まだじゅんびはできないのか？かかってこい、強い戦士たちよ！できるものなら、わたしのむねを矢でつらぬいてみろ。」

戦士たちはみんな矢をいましたが、一本もタートルにはあたりませんでした。ふたつのたてがむねとせなかをおおっていましたし、矢がビュンと空をとんでくるたびに、タートルは頭とうでをたてのあいだにひっこめたので、けがひとつしなかったのです。「どうしてわたしをねらわないんだ？」とタートルはさけびました。「山をうっているのか、それともお日さまとお月さまをうっているのか？まったく、たいした戦士たちだな！もう一度やってみろ。」

てきたちはもう一度矢をいました。すると今度は、地面にたおれていた、けがをした友だちに矢があたり、そのいのちをうばいました。タートルが「友よ、生きているか？」とさけんでも、へんじはありませんでした。

「友は死んでしまった」とタートルは言いました。「もうたたかわない。」

「こうさんしたぞ」と敵たちはさけびました。

「こうさんなどしない」とタートルは言い、ひとっとびで川へとびこみました。敵たちは、あとをおってとびこむ勇気がありませんでした。

「あの長いうでで、水の底へひきずりこまれてしまう」と敵たちは言いました。「でも、上がってくるまで見はっていよう。そうすれば、きっとつかまえられる。」

ところが、敵たちが思ったようにはいきませんでした。タートルは上がってこなかったのです。水の中に見えたのは、それまで一度も見たことのない、ふしぎな生き物だけでした。

「うでと頭があるぞ」とひとりが言いました。

「それに、タートルがやったように、うでと頭をひっこめるぞ」と、べつのひとりが言いました。

「タートルと同じように、せなかとむねにたてがついている」と、さいしょのひとりが言いました。戦士たちはみんな、そのふしぎな動物を見るのに夢中になって、たたかいのことなどわすれてしまいました。みんなは、川岸へおしよせました。

「あれはタートルじゃない」とひとりがさけびました。

「いや、タートルだ」とべつのひとりが言いきりました。

「あんまりタートルに似ているから、あれが見えているあいだは、水に入る気にはなれないよ」と、またべつのひとりが言いました。

「でも、あれがタートルでないなら、タートルはどこにいるんだ？」とみんながたずねましたが、部族のかしこい人たちも、だれひとり答えられませんでした。

たんご と クイズ　さいしょのカメだったの？

turtles カメ	**arrow** 矢	**shields** たて
river 川	**warriors** 戦士	**head** 頭
arms うで		

Q1 タートルが矢をふせぐために使ったものは？

① 大きな木　② ふたつのたて　③ 岩のかげ

Q2 矢がとんでくると、タートルはどうした？

① 頭とうでをひっこめた　② 大声で歌った　③ 木にのぼった

Q3 さいごに、タートルはどこへとびこんだ？

① 池　② 森　③ 川

こたえ

Q1　②　タートルは、ぶあついたてをひとつはせなかに、もうひとつはむねにつけて、矢をふせぎました。

Q2　①　矢がとんでくるたびに、タートルは頭とうでをたてのあいだにひっこめたので、けがをしませんでした。

Q3　③　タートルはひとっとびで川へとびこみ、そのあと水の上にはもどってきませんでした。かわりに、ふしぎな生き物が見えました。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #22420（Florence Holbrook、1902年）。パブリックドメイン。
挿絵：この本には挿絵がないため、場面をイメージして AI（Codex）で描いた絵です。
朗読（Web版）：Shy（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。